

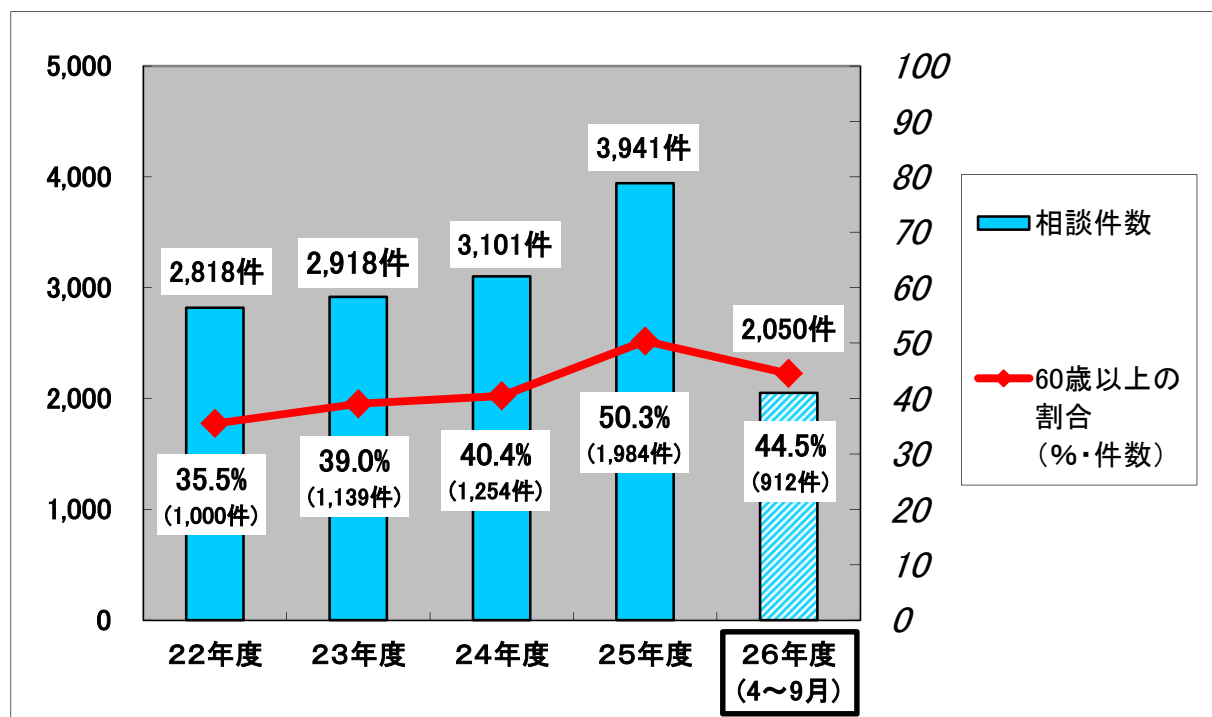
# 平成26年度上半期（4月～9月）消費生活相談の概要

岡山市消費生活センター

## 【相談の概要】

- (1) 相談件数は2,050件で、大幅に増加した平成25年度同期（1,989件）よりも、さらに61件増加。  
年代別では、高齢者層（60歳代以上）の相談が約1割減少する中、中間層（30～50歳代）の相談が665件と平成25年度同期比で93件増加となっている。
- (2) 相談内容は、「放送・コンテンツ」に関する相談が325件と平成25年度同期（209件）よりも約55%増加しており、インターネット関係の相談が急激に増加している。
- (3) トラブルになった金額（契約購入金額）の合計は、わかっているだけでも約7億円と、上半期としては過去最高額を更新。
- (4) 勧誘手口では、平成23年度以降に相談が増加している利殖商法（いわゆる「もうけ話」）については、上半期だけで133件と、平成25年度同期（146件）に迫る相談が寄せられており、引き続き注意が必要。  
また、公的機関を騙る医療費の還付金詐欺などの不審な電話に関する相談が30件と、平成25年度同期（11件）よりも約2.7倍の相談が寄せられており、被害はほとんどないものの相談が急増している。

### (1) - 1 相談件数の推移



## (1) - 2 年代別相談件数

年代区分	平成25年度 4月～9月	平成26年度 4月～9月
若年層（～20歳代）	144件	157件（+13件）
中間層（30～50歳代）	572件	665件（+93件）
高齢者層（60歳～）	1,017件	912件（-105件）
不明	256件	316件（+60件）
合計	1,989件	2,050件（+61件）

（特徴）・中間層からの相談が大幅（前年同期比+93件）に増加。

特に放送・コンテンツ関係（インターネットサイト利用料などのトラブル）関係に関する相談が多い。

・高齢者からの相談が減少。

健康食品の送りつけ商法の相談が激減（前年同期283件→12件）し、利殖商法（もうけ話）の相談も微減となっている。

## (2) 主な相談内容

### ①放送・コンテンツ関係 325件（前年度同期209件）+116件

→アダルト・出会い系サイトの高額な料金請求、インターネットサイト利用料の架空請求に関するトラブル、オンラインゲームに関するトラブルなど

#### 〈事例1〉

あるサイトから900万円当選したというメールが届いた。現金受け取りに必要なポイントを購入したが、なかなか当選金を受け取れない。相手から指示されるがままポイントを現金やクレジットカードで購入した。しかし、全く当選金を受け取ることができなかった。さらに、現金振り込みを指示されたため貯金が底をつき、騙されているのではないかと気づいた。（40歳代 女性）

#### 〈事例2〉

今年4月に携帯電話をスマートフォンに買い替えた。扱いに慣れずアダルトサイトに繋がってしまい2回にわたり計38万円振り込んだ。現在、さらに87万円の請求があり、支払えないと言ったら20万円が良いと言う。支払わなければならないか。（40歳代 男性）

### ②利殖商法（いわゆる「もうけ話」） 133件（前年度同期146件）-13件

→未公開株や社債などへの詐欺的な投資勧誘など

#### 〈事例1〉

証券会社を名乗る業者から電話があり、「市内にある業者が工場を建設する。債券を購入しないか」と言われた。興味がないと伝えたが、書類が届いたら電話がほしいと言われた。その後「あなたの名義で債券2000万円分を購入し、代金を振り込んだ。1週間後に債券が届くので、届いたら電話をしてほしい」と言われた。電話をしてこなければ訴訟にするとされた。（60歳代 男性）

〈事例2〉

2年前、高齢の一人暮らしの女性が200万円を投資し、翌月1,000万円を投資したところ16万円の配当が4回ほどあった。その後配当をもらえなくなり、業者と連絡がとれない。(80歳代 女性)

③インターネット通信サービス 90件(前年度同期48件) +42件

→パソコンのインターネット接続サービス(プロバイダーの乗りかえ相談)など

〈事例〉

大手通信会社を騙って電話をかけてきた業者に、プロバイダの変更を勧められた。申し込みを了承し、クレジットカードの番号を伝えた。その後大手通信会社からの勧誘ではないことが分かった。今日遠隔操作をしてもらうことになっているが、やはり申し込みを撤回したい。(30歳代 男性)

〈事例2〉

光回線を利用しているが、他のプロバイダ業者のインターネットの利用料が安かったので新しく契約をした。その際、元の光回線の契約は解約を申し出た。そのため違約金3万円を請求されたので支払ったが、先日3万4000円が別に口座から引き落とされていた。説明が無く不審に思う。(50歳代 男性)

### (3) 契約購入金額

	契約購入金額合計	平均 契約購入金額	契約購入金額が 1千万円以上の件数
平成26年度 4月～9月	<u>6億9,947万円</u> (4億9,622万円)	<u>116万円</u> (228万円)	<u>19件※</u> (16件)
平成25年度 4月～9月	6億412万円 (3億6,100万円)	92万円 (111万円)	13件 (6件)

・平均契約購入金額は相談件数のうち金額が判明している相談のみで算出

・( )内の金額・件数は契約当事者が60歳以上のもの

※利殖商法のトラブル、住宅の建築契約に関するトラブルなど

(特徴)

・トラブルになった金額(契約購入金額)の合計は、わかっているだけでも約7億円と、上半期としては過去最高額を大幅に更新。

・平均契約購入金額も前年度同期よりも高くなっており、さらに60歳以上の金額も倍増し、トラブル金額が高額化している。

・購入金額1千万円以上の高額なトラブル件数も増加し、特に60歳以上のトラブルが大幅に増加し16件となり、うち14件(87.5%)が利殖商法のトラブルとなっている。

## (4) 勧誘手口

### ①利殖商法 ※事例は(2) - ②利殖商法を参照

#### (利殖商法とは)

「必ずもうかる」などと、未公開株や社債などの投資を勧誘する、いわゆる「もうけ話」に関する手口。一度契約してお金を払ってしまうと、業者と連絡が取れなくなるなど、詐欺的な手口が非常に多い。

	件数	平均契約購入金額 (最高額)	平均既払い額 (最高額)
平成26年度 4月～9月	133件	591万円 (2,000万円)	231万円 (1,200万円)
平成25年度 4月～9月	146件	824万円 (1億4,000万円)	1,317万円 (1億4,000万円)
平成24年度 4月～9月	49件	287万円 (1,000万円)	240万円 (790万円)

・平均契約購入金額及び平均既払い額は相談件数のうち金額が判明している相談のみで算出

#### (特徴)

- ・23年度以降に相談が増加した利殖商法については、上半期だけで133件と、上半期で過去最高だった25年度(上半期:146件)に迫る相談が寄せられており、引き続き注意が必要となっている。
- ・送金方法については、口座への振込みのほか、書類などと偽って郵便や宅配便等で送金させる手口や、契約当事者の自宅に直接業者が集金に来る手口など多様化・巧妙化。

### ②公的機関を騙る医療費の還付金詐欺などの不審な電話が増加

#### (不審な電話とは)

「払いすぎた医療費の還付金がある」などと市役所など公的機関を騙り電話をかけて、ATMに誘導し、お金を振り込ませるといった手口。最近では、世帯状況や収入状況、銀行口座などの個人情報を聞き出すといった相談も多く寄せられている。

	件数
平成26年度 4月～9月	30件
平成25年度 4月～9月	11件

〈事例1〉

市の国民健康保険課を騙り、若い男性から「昨年度の医療費を還付する。書類を送ったが期限を過ぎても返信がない。直接銀行口座に振り込むので、銀行の口座番号を教えてほしい」と言われた。すぐに不審に思ったので自分で確認するといい、電話を切った。 (70代 男性)

〈事例2〉

岡山市消費生活センターを名乗る男性から、「通販事業者など4件個人情報の登録があり、抹消手続きを呼び掛けているので、手続きをするか」と電話があった。利用したことがある事業者だったので抹消手続きを依頼したら、1件は通常手続きでは処理できないので、明日、別の者より連絡があると言われ電話が切れた。家族構成や預金口座など余計な情報は言っていないが、後で考えると不安になった。本当だろうか。 (70歳代 女性)